

二〇二六年度 大学院(博士後期課程)入学試験問題

(文学研究科 日本語日本文学専攻)

(科目名:第2群 ④古典漢文(日本語日本文学))

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2026年2月23日(月)

左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

(『和漢三才図会』巻四十 佐類)

注 ○鉄物Ⅱ鉄製の道具。鎌や鍬など。 ○溪澗Ⅱ谷川。 ○凹Ⅱへこみがあり。 ○一菊Ⅱ「一擲」に同じ。ひとすくい。 ○夕陽Ⅱ夕方。
○瓜茄Ⅱ瓜や茄子。 ○健夫Ⅱ血気盛んな男。 ○水湾Ⅱ水の流れの湾曲したところ。 ○川だち男Ⅱ「川太郎」に同じ。

問一 (A) には、この文章に記される「川太郎」の別称が入ります。
カタカナでその別称を記しなさい。

問二 波線部 a ｘ e の読みを、送り仮名のある場合は送り仮名を省略して、ひらがなで記しなさい。

二〇二六年度 大学院(博士後期課程)入学試験問題

(文学研究科 日本語日本文学専攻)

(科目名:第2群 ④古典漢文(日本語日本文学))

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2026年2月23日(月)

問三 傍線部①「為人言」とはどういうことですか。説明しなさい。

問四 傍線部②「力竭仆矣」は、誰がどのような理由でそうなるのでしょうか。
説明しなさい。

問五 傍線部③「且其手肱能通脱左右、滑利故不能如之何也」を現代語訳しなさい。

問六 傍線部④「曹公」は歴史上実在したある人物の尊称です。その人物名を記しなさい。

問七 傍線部⑤「偶雖有捕之者、恐後崇放之」に返り点・送り仮名を付して記し
たうえで、現代語訳しなさい。